

岡倉天心生誕一五〇年記念特別講演会

「岡倉天心と妣の国・福井」

鍵岡正謹氏（美術館連絡協議会理事／岡山県立美術館館長）

はは

「妣の国」とは、黄泉の国を指す言葉であり、「妣」とは「亡き母」を意味します。この講演会では、

幼い時に母を亡くした天心の“母恋い”物語を、晩年に執筆された詩劇「白狐」を中心に、谷崎潤一郎、泉鏡花、折口信夫らと比較してお話いただきます。また天心の父・岡倉覚右衛門と福井藩の係わりについても併せてお話しいただきます。

【日時】 11月23日（土）

午後2時～午後3時30分

【場所】 福井県立美術館講堂にて

※先着100名（聴講無料、ただし展覧会は別途チケットが必要）

かぎおかまさのり 鍵岡正謹氏 略歴

昭和18(1943)年、奈良県に生まれる。慶應義塾大学卒業後、平凡社で編集員として『岡倉天心全集』を手掛け、その後、セゾン美術館(西武美術館)で学芸員となり、学芸部長を経て平成5(1993)年、高知県立美術館初代館長に就任する。平成18(2006)年に岡山県立美術館館長に就き、現在に至る。

主な著書に、詩集『鉛島(ナマリシマ)』『山脇信徳—モネと呼ばれた男』など。